

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401012		
法人名	アトム商事 株式会社		
事業所名	グループホームあすか		
所在地	札幌市西区西町北1 2丁目4-9		
自己評価作成日	平成22年10月18日	評価結果市町村受理日	平成22年12月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigoqhoc-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170401012&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成22年11月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

数名の利用者から「この人はみんなよくしてくれる」と言われるほど職員は明るく優しい人ばかりで心と心をつなぐ利用者本位のケアがなされている。居室や共用部分は1日1回塩素消毒が行われており、食器や調理器具に関しても1ヶ月に2度消毒日が設けられ、衛生管理をしっかりと行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設7年目を迎えている当ホームは、2階にデイサービスと居宅介護支援事業所を併設しており、連携が図られています。運営者は毎日ホームを訪れ、利用者や職員の全体像を把握し、人手が必要なときには支援に回るなど、きめ細やかなケアサービスに取り組んでいます。家族からもホームの接遇に感謝の言葉をいただいています。地域の方々との交流も深まり、ホームの質の向上に向けて日々邁進している「グループホームあすか」です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します									
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と		
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族の2/3くらいと		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと		
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように		
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度		
			3. たまにある				3. たまに		
			4. ほとんどない				4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている		
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない		
			4. ほとんどいない				4. 全くいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が						
			2. 利用者の2/3くらいが						
			3. 利用者の1/3くらいが						
			4. ほとんどいない						

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員のアンケートや運営推進会議の意見をもとに理念を作り、ミーティング時に職員全員で唱和したり、ホールの目立つところに掲示するなどして確認し、理念に基づいたケアを日々実践している。	開設時の理念を踏まえ、全ての職員及び運営推進会議のメンバーの意見を参考に新しい理念を作成し、日々実践に努め、ケアサービスに活かしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年に1度町内の方々を招いてお祭りを行っている。また、運営推進会議に参加していただいたり、散歩などですれ違う際に挨拶を交わしたり、お庭の花を見せていただくなどの交流をしている。	挨拶はもとより地域での買い物、法人主催の行事には地域の方々の参加をいただくなど、和やかな交流があります。運営者は町内会役員を務め、ホームへの理解に繋がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて来ていただいた方々と認知症の勉強会を行ったり、グループホームの役割や一部の業務内容をお伝えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実際にホームにて起こった事故や夜間の職員の流れ、業務内容を報告し、そこでの意見をサービスの向上につなげている。	2ヵ月毎に開催し、ホームの現況報告、看護体制、行事日程、防災対策等が討議され、課題は会議で具体策を検討し、サービスの向上に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターの職員とは運営推進会議や困難事例の相談などで連携体制がとれている。市の担当者とは電話などで相談している。	行政の担当者とは日頃から連携を図り、情報交換やホームの課題に助言をいただき、サービスの質の向上に繋がっています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内にて勉強会を行い代表者および全ての職員が理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	禁止の対象となる行為の理解に努め、身体拘束をしないケアの実践に努めています。利用者は職員の見守りの下、外出しており、徘徊時に備え、SOSネットワーク登録や近所の方々の協力をいただいています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内の勉強会にて学ぶ機会を持った。ホーム内で虐待が行われないよう管理者を中心にその都度話し合い防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内にて成年後見制度の勉強会を行い、知識を共有している。今後必要とされる事例があった際にいかしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、重要事項説明書に沿って十分な説明を行うとともに利用者や家族に不安や疑問点を尋ねている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者から意見や要望を聞きやすい環境に努め、意見、要望あった時には職員間で共有し対応を検討している。家族の来訪時には面会を行い意見や要望がないか尋ねている。	意見や要望は日々の関わりの中で把握し、家族の来訪時には話しやすい雰囲気作りに努めています。意見箱の設置、内部・外部の相談窓口の案内で課題の解決を図っています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議にて意見交換の場を設けており、そこで話し合われた内容を反映させている。	運営者や管理者は、日常業務や会議等で職員の要望や提案を聞く機会を設けています。表出された課題を受け止め、サービスの質の向上に活かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はほぼ毎日ホームにきており、管理者や職員と連絡を取り合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム管理者会の研修等に参加している。その他の研修に関しては案内はされているが個々の職員に委ねられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、管理者会などでネットワークを確立している。職員に関しては、管理者会の行事やホームのお祭りの際招いたり、相互訪問などで意見交換を行い交流を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本的には入居前にご本人と直接会い今抱えている不安や要望を聞き、入居後もそれらに配慮した声掛けや対応を心掛け、安心して頂くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホーム入居に至った経緯や不安を聞くとともに、入居させることは決して後ろめたいことでは無いことを説明し、本人、家族、グループホーム間の良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前情報などから本人を知り、これまでの生活歴に沿ってケアするように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	私事を相談し合ったり、本人の生活歴をもとに嗜好や趣味などに配慮している。共に感情を共有して過ごして頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連携を密に取り、何かあればその都度相談し合いながら本人のケアを行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間などに制限はなく、いつでも来訪出来るようにしている。来訪時には居室でゆっくりと過ごして頂いている。馴染みの人との電話なども希望時にその都度かけて頂いている。	利用者がこれまで培ってきた地域社会との関係を尊重し、家族や友人、知人への電話や手紙の支援をしています。訪問時は居心地良く過ごせるよう配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席やレクなど利用者間の関係に配慮されて行われている。他利用者とコミュニケーションがうまく取れない方に関しては職員が間に入ったり、家族や職員とのコミュニケーションを増やすなどの対応を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先へ継続的にお見舞いに行ったり、亡くなられた方の葬儀に参加させていただいている。必要に応じて相談や支援するよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活歴や言葉、行動などから希望や意向を把握し、記録などで職員が把握し、必要に応じてミーティングなどで話し合い、ケアの方針を決めている。	生活歴や職員間の気付き、利用者の言葉を記録しているノートを参考に、利用者の視点に立ち、思いや意向を捉えています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人の言葉、これまでの担当ケアマネージャー、サービス担当者の情報を職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送り等で本人の状態を把握し、その時の状態によって臨機応変に対応している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のモニタリングにて計画作成者を中心にケアプランの達成度や課題について話し合っている。本人や家族からの意向はその都度聞いておりケアプランに反映されている。	介護計画は利用者や家族の意向、医療関係者の意見を踏まえ、職員全員で検討し作成しています。評価後は、3ヵ月毎の見直しや急変時は新たな介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアを行った際、本人の言葉などを中心に記録し、職員間で共有し日々のケアに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況が変化した際に柔軟な対応をするよう心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署との避難訓練やSOSネットワークの活用など本人が安全で安心して過ごして頂けるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関に関しては本人や家族が自由に選択されており、伝えるべきことがある時は受診時や往診時に伝えている。急変時には電話にて連絡を取り合っている。	医療機関は利用者や家族の希望を尊重しています。家族対応が困難な時は、往診依頼や職員が受診支援をし、情報は共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は週1回勤務しており、体調管理や往診の付添等行っている。また、特変時には24時間オンコールになっており介護職員と連携が取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際本人の基本情報を医療機関と共有している。また、本人の状態によって医療機関の説明を家族と同伴させていただいている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前に家族には重度化や終末期に向けた指針の説明を行い共有している。	対応指針を利用開始時に書面で説明し同意書をいただいています。看取り対応も視野に入れ、利用者、家族、医療関係者と段階的に話し合う態勢を整えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一部の職員は外部の訓練や研修に参加しているが、全ての職員には至っておらず、定期的にも行われていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力のもと避難訓練を行っている。火災時のマニュアルがあり、全職員が共有している。運営推進委員会を通して地域の方に協力を呼び掛けている。	日中の避難訓練を年2回実施し、緊急通報器のほか玄関先にはベル、バトライトを設置し、地域の方々に協力をお願いしています。	今後、夜間を含む、あらゆる場面を想定しての訓練や災害備品の備え、屋内避難場所の確保、地域の方々との連携強化を図る意向ですので取り組みに期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送りの際にイニシャルを使ったり、トイレの誘導の際に「ちょっと用事が～」など声掛けに配慮している。	人格を尊重し、特にトイレ誘導時や入浴時には接遇に配慮しており、個人情報適正に管理しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けなどで「～してくれませんか」など本人の自己決定を促すよう努めている。自己決定が困難な方には利用者本位で対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や散歩、買い物など極力本人の希望に沿って対応している。起床時間と就寝時間に制限はなく、本人の意向を優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理、美容は本人の希望時、又は定期的に行っている。衣服は基本的には本人が選んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や食器拭きなど出来る方には行っていたりしている。利用者個々の嗜好を把握し、嫌いなものは代替えを用意するなどの支援を行っている。	利用者の好みや行事食の希望を伝え、業者から献立と食材を調達しています。食事の一連の作業を共同で行い食卓を共にしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は外部業者に委託しており、栄養のバランスがとれた食事になっている。毎日の食事量や水分量を記録しトータル的に把握するよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	3食後に声掛けや見守りなどで、極力本人に口腔ケアして頂いている。その日によって出来ない方には一部介助に行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は専用の記録用紙にて各々の排泄パターンを把握するとともに本人の状態を見ながらのトイレ誘導やポータブルトイレの使用などトイレで排泄していただくよう心掛けている。	排泄チェック表で個人別のパターンを把握し、排泄の失敗を減らす方策を考慮するなど、自立支援に向けて取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と相談の上での下剤の調整や早朝時の牛乳提供、廊下歩行の促しなど個々に合った予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望を極力取り入れて支援している。時間帯はある程度決められているが、曜日は決められておらず基本的には毎日行っている。	毎日入浴できる態勢を整え、利用者の体調や意向を優先しています。状態に応じ足浴やシャワー浴、時には家族の入浴支援をいただき、清潔保持に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床や起床の時間に制限はなく、本人のペースに合わせている。本人の体調を見ながら休息して頂くなどの支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のケース記録に薬の説明書きが載っており、全職員が共有している。薬の変更があった時には状態の変化を観察し、何かあれば、主治医に連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々に合った、編み物、台所仕事、パズル、散歩など本人が昔から好んでいたことをしていただくよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望時には近所を散歩したり、目の前に設置してあるテラスにて日光浴をしている。外出レクでは利用者の意見を取り入れ、お寿司屋さんや大型ショッピングセンター等へ出かけている。	天候や体調に応じて散歩や買い物、テラスで日光浴や食事を楽しんでいます。季節毎の外出行事や食事会、時には家族参加の外出を企画し、気分転換や外気に触れる機会に繋がっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今現在お金を所持されている方はおらず、預かっているお金で購入していただいたり、職員が代行し、購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には事務所にある電話を貸し出し、自室にてかけていただいている。手紙は代筆や投函などの支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には外を見渡せる大きな窓があり、開放的になっている。日除けも設置されており、日光の調整もできるようにになっている。全体的に狭いが、物の配置を変えるなどの工夫をしている。廊下には利用者の作品や写真、季節感のある貼り物を掲示している。	日差しがよく入る居間の窓から季節の移ろいを感じています。職員は清潔感を保つため清掃、衛生面に配慮しています。季節毎の利用者の作品や行事の写真は生活に彩りを添えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの配置を変えるなどして気の合った利用者同士で思い思いの時間を過ごされている。独りになりたい時は自室を利用されていることが多い。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に本人や家族に使い慣れたものを置いていただくよう勧めている。また、本人の写真や本人の大切な人の写真を飾るなど居心地良く暮らせるよう配慮している。	湿度、温度に配慮した居室内は、馴染みの家具や調度品、趣味の作品が配置されています。職員は利用者や家族の心情を汲み取り安心して生活出来る支援に努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要個所には手すりが設置されており、ホーム内は全てバリアフリーになっている。夜間トイレに電球をつけるなどの工夫をしている。		